

TURNING

MILLING

ULTRASONIC

LASERTEC

ADDITIVE MANUFACTURING

AUTOMATION

TECHNOLOGY EXCELLENCE

DIGITIZATION

CELOS

ADAMOS

SERVICES

DMG MORI QUALIFIED PRODUCTS

第71期 中間 株主通信

2018年1月1日●2018年6月30日

お客様にとって一番の 工作機械メーカーであること。 それが私たちのグローバルワンです。

工作機械の総合メーカーとして、DMG森精機は常に変革と挑戦を続けてまいりました。そして今、私たちが目指していること。それは、お客様にとって一番の工作機械メーカーになることです。最高の技術とサービスを絶えず追求し、工作機械の新しい価値と無限の可能性を、世界中のお客様へお届けしてまいります。

取締役社長
博士(工学) **森 雅彦**



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、心よりお礼申し上げます。
ここに第71期中間期(2018年1月1日から2018年6月30日まで)の
株主通信をお届けするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

Q 当中間期の業績は?

当第2四半期連結累計期間における業績は、売上収益は235,283百万円(1,786,509千EUR)、営業利益は15,763百万円(119,691千EUR)、税引前四半期利益は13,603百万円(103,291千EUR)、親会社の所有者に帰属する四半期利益は8,886百万円(67,472千EUR)となりました。工作機械関連の第2四半期累計受注額は、前年同期比24%増の2,661億円と引き続き好調に推移しました。機械本体に加え、多軸機、自動化システムの受注が拡大しており、販売単価の

上昇を伴い増勢基調を維持しております。地域別受注は日本が53%増となり、半導体製造装置、自動車向けなどの受注拡大が牽引し、最も高い伸びとなりました。さらに、米州は27%増、欧州も17%増と好調だったほか、中国では大型輸送機器向け部品を加工する工作機械の需要拡大が続いたことで、36%増と大きく伸ばしました。また、工作機械関連における売上構成は、機械本体が50%、ソフトウェアなどのオプションが31%、補修部品などが18%と大きく変化しつつあり、事業の安定性が増しております。なお、2018年2月13日に公表いたしました通期の連結業績予想から、好調な受注環境を背景として、

※ ユーロ建表示は2018年1月~6月の期中平均レート131.7円で換算しております。

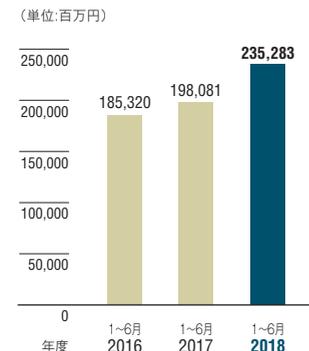
売上収益、営業利益、親会社の所有者に帰属する四半期利益を修正しております。

Q 当中間期の技術と成果は?

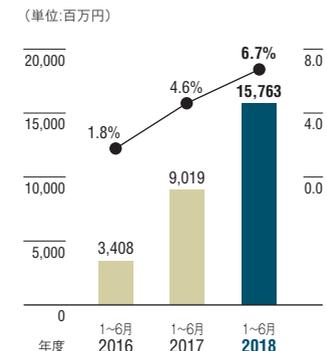
技術面では、高い剛性と精度が求められる量産部品加工に最適な横形マシニングセンタNHX 4000/5000 3rd Generationを開発し、5月の自社展示会伊賀イノベーションデーにて国内初披露いたしました。高性能主軸speedMASTERに加えて、微細な切りくずを効率的に回収する新技術ゼロスラッジクーラントタンクを標準搭載することで、高速加工を実現しつつメンテナンス性を大幅に向上させ

ました。また、オープンイノベーションを積極的に推進し、コンパクトなスペースで導入できる搬送用ロボット「D-Carry」を株式会社デンソーと、1台に機能を集約したロボットシステム「MATRIS mini」を株式会社不二越と共同開発いたしました。当社では、より多くのお客様に新しい技術を提案できるよう、引き続き様々な新製品を開発してまいります。販売面につきましては、アメリカ・シカゴと伊賀事業所にてイノベーションデー、イタリア・ベルガモ工場にてオープンハウスを開催し、大規模自動化システム案件を含む多くの受注獲得へとつながっております。これらの展示会では、CELOSを通じたコネクテッドインダストリーズ、自動化、5軸加工、アディティブマニュファクチャリングといった最新技術を披露し、好評を得ています。また、名古屋で

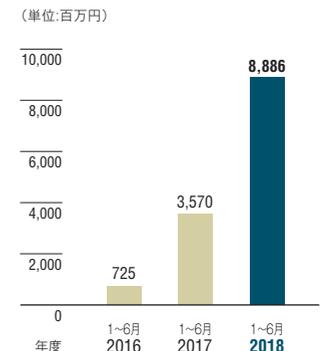
連結売上収益



連結営業利益



親会社の所有者に 帰属する四半期利益



初めて開かれた金型の見本市インターモールド名古屋においては、レーザ加工と5軸加工を駆使して高精度な金属加工を高効率に実現するソリューションをご提案し、多くのお客様から反響をいただきました。当社は、工作機械の開発・製造からソリューションの提供、システム構築までを一括して担うエンジニアリングカンパニーを目指してきましたが、実現・実践の段階に入り、競争力を増しております。今後も培った競争力を強化し、目標に向かって邁進してまいります。

IoT、デジタル化の促進に向けた取り組みとしては、デジタルマーケットを開拓する新会社テクニウム株式会社をはじめとするグループ会社・研究所が集結し、「東京デジタルイノベーションセンタ」を開所いたしました。最先端技術を有する各組織が相乗効果を発揮することで、今後も製造業のデジタル化に貢献してまいります。

当社は人材教育に力を入れており、社内の若手技術者を対象にした長期研修を導入いたしました。

また、社員が働き続けやすい環境整備にも引き続き取り組んでおります。メリハリをつけた働き方により有給休暇の完全取得を目指すことに加え、4月には社員の子どものためのDMG MORI 保育園を開園いたしました。“よく遊び、よく学び、よく働く”をモットーに、今後も広い分野での社員の活躍を支援し、全社一体となって成長してまいります。

第71期の中間配当につきましては、当社の業績と経済情勢を勘案し、1株あたり25円を9月14日からお支払いすることといたします。

Q 通期の技術と市場は？

製造業の生産性改善投資が継続する中、当社では製造現場での自動化・複合化の促進と5軸加工機の普及に引き続き取り組んでまいります。電気自動車の増加などの社会変化を受けて、

製造業では、従来型の大量生産と複雑形状の少量多品種生産の二極化が進んでおります。そこで、生産の効率をさらに高める自動化システムと、複雑形状の加工を可能にする5軸加工機・複合加工機を組み合わせることで、お客様のニーズに合わせた最適な提案をしております。また、安心して5軸加工機を導入いただけるよう、創業70周年記念事業として、「5軸加工研究会」を発足し、技術研究やオペレータ育成にも力を入れてまいります。さらに、伊賀事業所内に金型に特化した「金型エクセレンスセンタ」を設立し、お客様の高精度かつ短納期での金型生産に尽力いたします。

2018年9月にはアメリカ・シカゴでIMTS、ドイツ・シュツットガルトでAMB、11月には東京でJIMTOF 2018など大型の展示会が開催される予定です。より革新的な新製品の投入に加え、引き続き自動化システムの提案によりお客様の価値向上に貢献することで受注を拡大し、

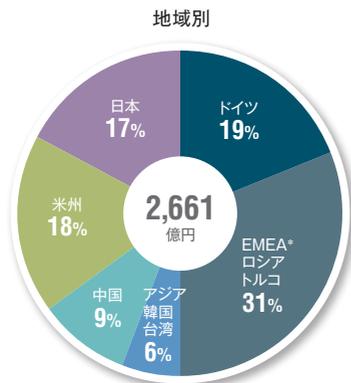
2018年通期の工作機械関連の受注計画については、従来の4,700億円からさらに引き上げ4,800億円以上を目指します。また、中長期的に年間15,000台程度の供給能力確保を目標に、ポーランドのFAMOT工場の拡張など能力増強に向けて動いております。これにより、将来的には年間8,000億円程度の売上を可能とする、揺るぎない供給体制を構築してまいります。

利益配分につきましては、将来の事業計画、業績、財務状況などを総合的に考慮し、安定的にかつ継続的に配当を実施していくことを基本方針としております。期末の1株あたりの配当予想は、25円（年間配当50円）でございます。

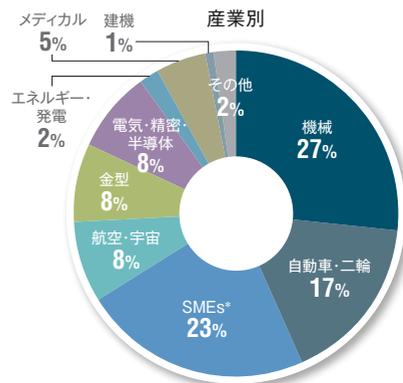
株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

受注構成 2018年(1~6月)

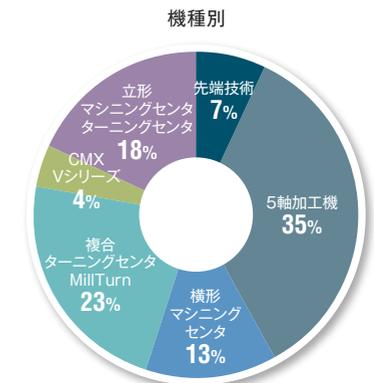
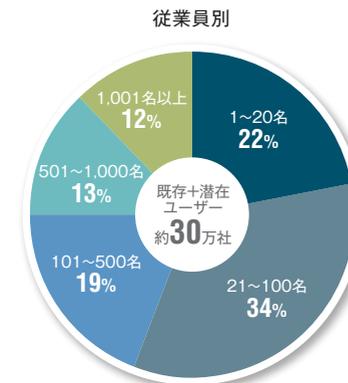
※金額ベース ※機械本体のみ



* Europe, the Middle East and Africa



* Small and Medium-sized Enterprises



2018年5月

伊賀イノベーションデー2018開催

5月22日(火)から5月26日(土)の5日間、伊賀事業所にて伊賀イノベーションデー2018を開催いたしました。当社で世界最大のショールームである「伊賀グローバルソリューションセンター」をメイン会場として、最新鋭の工作機械約50機の展示や自動化のご提案に加え、約90社のパートナー企業様の出展、コラボレーション企画や工場見学など様々なイベントを開催し、5日間で9,200名以上のお客様にご来場いただきました。会期中は、世界初披露となるALXシリーズを11月のJIMTOF 2018(東京)に先駆けて参考出品、複合加工機NTXシリーズ 2nd Generation、横形マシニングセンタNHXシリーズ 3rd Generationを国内初披露いたしました。また、モジュール化したロボットシステムMATRISやロボットアーム、ローダ、パレットハンドリングなどを活用した自動化システムのご提案、5軸加工機と自動化の組み合わせによる生産性向上のご提案を行いました。

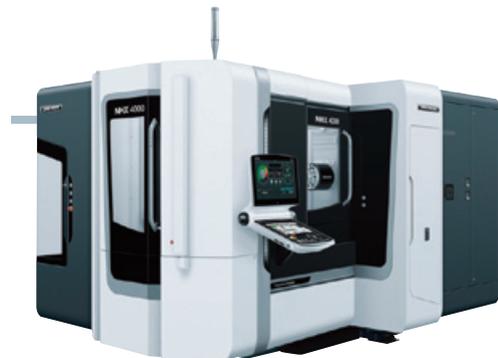
2018年下半年には、AMB(ドイツ・シュツットガルト)、IMTS(アメリカ・シカゴ)、JIMTOF 2018 への出展を控えており、新機種・新技術の初披露を多数予定しています。



2018年5月

NHX 4000 / 5000
3rd Generationを販売開始

横形マシニングセンタNHXシリーズの第3世代モデルとなるNHX 4000 / 5000 3rd Generationの2機種の販売を開始しました。NHX 4000 / 5000 3rd Generationは、剛性と精度が求められる自動車や航空宇宙分野などの量産部品加工に最適な横形マシニングセンタです。自社内製主軸であるspeedMASTERを標準搭載しています。また、新たに開発した「ゼロスラッジクーラントタンク」を標準で装備し、スラッジを高効率に回収することで、クーラントタンクのメンテナンス性が大幅に向上しています。



横形マシニングセンタ
NHX 4000 3rd Generation

2018年6月

東京デジタル
イノベーションセンタ開所

6月1日(金)、東京デジタルイノベーションセンタを開所いたしました。お客様や報道関係者、合わせて約130名をご招待し、開所式、内覧会を行いました。東京デジタルイノベーションセンタは、DMG森精機グループ会社の株式会社マグネスケール、株式会社サキコーポレーション、ピー・ユー・ジーDMG 森精機株式会社、デジタルマーケットを開拓する新会社「テクニウム株式会社」、そして先端技術研究センターの本拠地として機能します。当社が世界に誇る最先端技術を有する組織が、同じ屋根の下で製品の研究・開発に励むことによるシナジー効果を期待しています。

東京デジタルイノベーションセンタ外観



2018年5月

金型エクセレンス
センタ始動

5月より、金型エクセレンスセンタが始動いたしました。自動車や半導体分野の市場が伸長しており、板金や樹脂の金型産業の需要・成長が見込まれます。そのような中で、金型エクセレンスセンタでは、新たな金型加工技術の開発に取り組み、それらを用いて、お客様へ最適なソリューションを提案いたします。主に自動車大形金型(プレス、射出成形、ダイキャストなど)、高精度金型において、積極的にお客様のご意向を伺い、国内外で蓄積してきた成功事例をもって、お客様のさらなる高精度・短納期な金型生産のために尽力いたします。

2018年8月

お客様70社とDMU 50 3rd Generation
70機で5軸加工研究会を発足

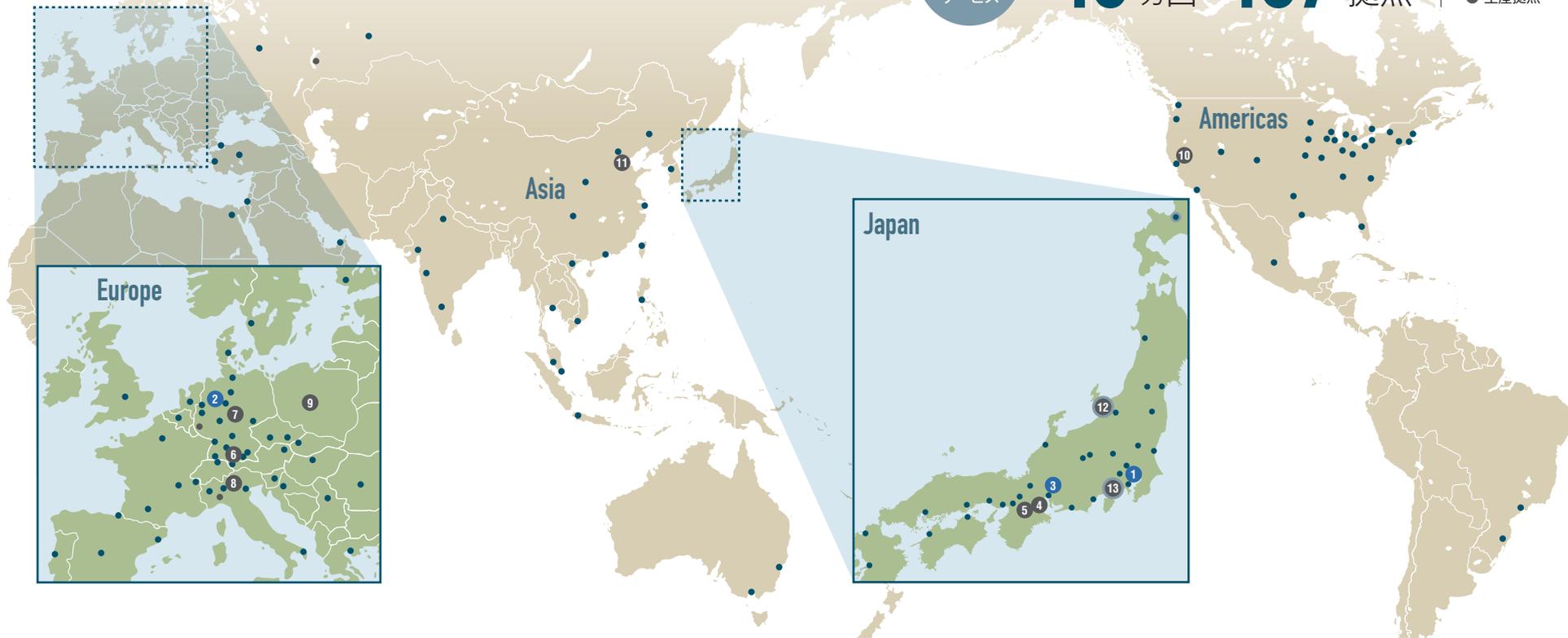
当社は10月26日に創立70周年を迎えます。これもひとえに、お客様並びに関係者の皆様のご愛顧の賜物と深くお礼申し上げます。周年を期して、当社は5軸加工研究会を発足しました。日本に留まらず世界中の製造現場で、工程分割から工程集約へと流れが急激に変化してきました。それに伴い、IoTやAIを活用した自動化や省人化への関心・需要の高まりは、どの業界においても顕著になっています。工作機械業界では、5軸加工への関心の高まりとしてそれが現れています。この潮流を勢いづけ、日本国内の5軸加工機普及を推進し、お客様の生産性向上に貢献したい、当社はこの思いを実現に近づけるため5軸加工研究会を発足しました。全国70社のお客様に、5軸加工機のスタンダード機である「DMU 50 3rd Generation」70機を貸し出し、豊富な経験、知識を備えた当社で最高のエンジニアによる各社でのセミナー、若手オペレータの育成を行います。今回の5軸加工研究会の発足が、5軸化の遅れが指摘される日本国内の製造現場への5軸加工浸透、延いては人手不足解消や、生産性向上、SMEsのイノベーション活性化の一助になればと考えています。

全世界でお客様をサポートしています。

全世界の
セールス&
サービス

43 カ国 157 拠点

- セールス&サービス
- グループ会社
- 生産拠点



グローバル
ヘッドクォータ

DMG MORIのセールス・サービス・マーケティング・経理財務・人事を統括するグローバル本社です。



1 東京

ナショナルヘッドクォータ

ドイツ

DMG MORI AGの本社として機能します。



2 Bielefeld

日本

DMG森精機の本社として機能します。



3 名古屋

開発・生産（日本）



4 伊賀



5 奈良
奈良システムソリューション工場

開発・生産（ドイツ・イタリア・ポーランド・アメリカ・中国・グループ会社）



6 Pfronten(ドイツ)



7 Seebach(ドイツ)



8 Bergamo(イタリア)



9 Pleszew(ポーランド)



10 Davis(アメリカ)



11 Tianjin(中国)



12 太陽工場(新潟)



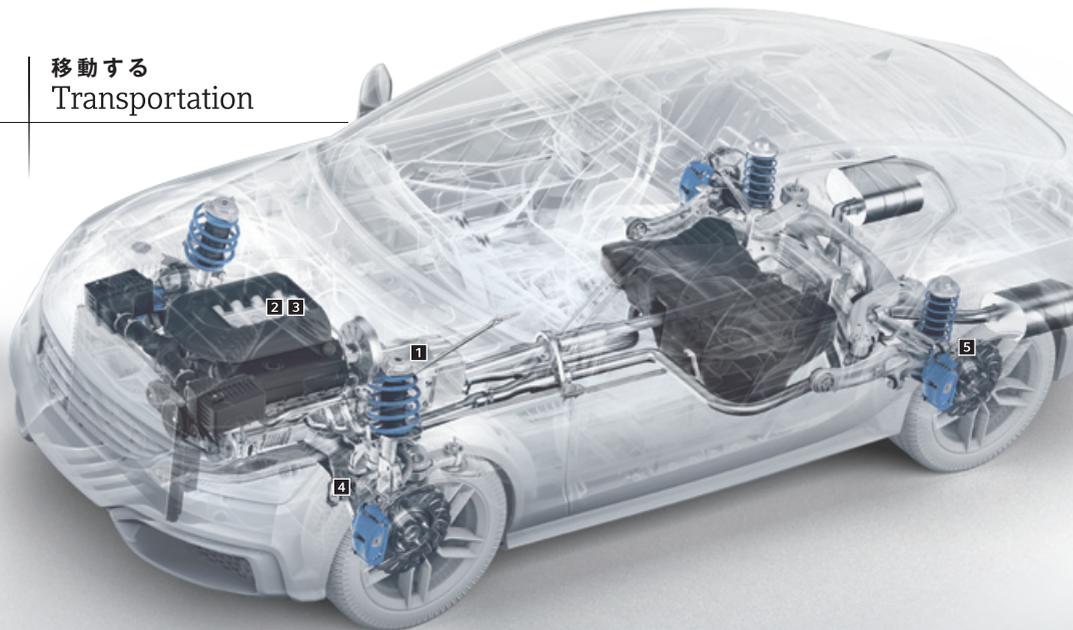
13 マグネスケール(神奈川)

※主要開発・生産拠点、他数ヶ所

私たちの生活は衣食住に加えて、移動する、通信する、健康に暮らすなどの行動で成り立っています。そしてそのすべての人間活動に工作機械は欠かせません。例えば、自動車は工作機械が削り出した多数の部品で構成されています。また、ペットボトルは工作機械によって削られた金型に原料を流し込んで生み出されています。このように、一見関係がないように思える身近な日用品も、実はもとをたどれば工作機械が関わっています。工作機械の進化によって、私たちの生活はより豊かになります。



移動する Transportation



1 ZF 8HP ギヤボックスハウジング



2 シリンダブロック



3 クランクシャフト

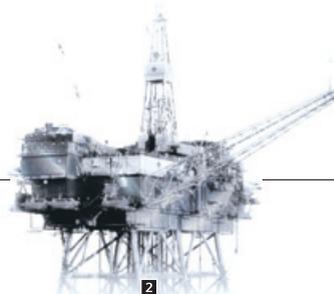


4 CVJ インナーレース



5 ホイールハブ

住む Living



1 タービンブレード



2 ドリルヘッド

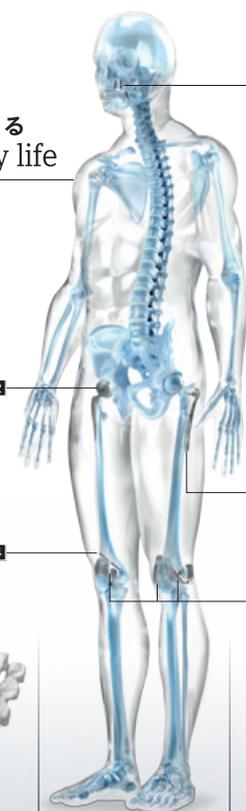


3 建機部品



ポンプハウジング

健康になる Healthy life



1 義歯



2 ソケット



3 股関節

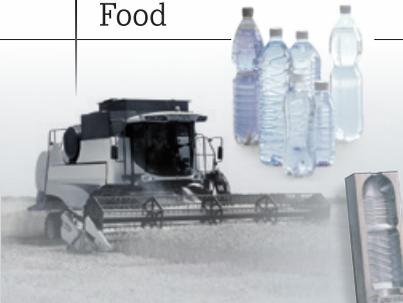


4 骨ねじ



5 膝関節

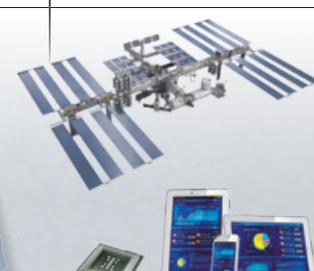
食べる Food



着る Garments



知る Information



連結財政状態計算書

(単位:百万円)

科目	前期 2017年 12月31日現在	当中間期 2018年 6月30日現在
流動資産	267,979	247,240
非流動資産	299,431	286,206
有形固定資産	133,983	127,767
のれん	73,347	69,517
その他の無形資産	69,315	65,719
その他	22,786	23,203
資産合計	567,411	533,446
流動負債	159,958	175,374
非流動負債	297,433	247,402
資本合計	110,019	110,670
負債及び資本合計	567,411	533,446

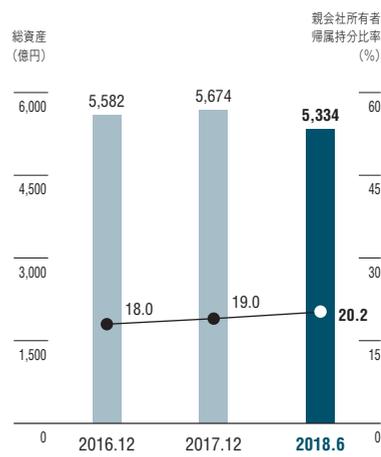
連結損益計算書

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

科目	前中間期 自2017年1月1日 至2017年6月30日	当中間期 自2018年1月1日 至2018年6月30日
収益合計	201,297	237,152
売上収益	198,081	235,283
その他の収益	3,216	1,868
費用合計	192,278	221,388
商品及び製品・仕掛品の増減	3,401	△ 8,772
原材料費及び消耗品費	86,605	116,239
人件費	57,514	63,938
減価償却費及び償却費	8,886	8,988
その他の費用	35,870	40,995
営業利益	9,019	15,763
税引前四半期利益	6,968	13,603
四半期利益	3,739	9,126
親会社の所有者	3,570	8,886
非支配持分	169	240

総資産／親会社所有者帰属持分比率



連結キャッシュ・フロー計算書

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

科目	前中間期 自2017年1月1日 至2017年6月30日	当中間期 自2018年1月1日 至2018年6月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△4,629	21,292
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,073	△6,304
財務活動によるキャッシュ・フロー	△17,402	△43,993
現金及び現金同等物に係る換算差額	958	△2,459
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△25,147	△31,464
現金及び現金同等物の期首残高	67,750	64,973
現金及び現金同等物の四半期末残高	42,603	33,509

詳しい解説は「連結決算Q&A資料」より
ご覧いただけます。

DMG森精機 投資家

検索

<https://www.dmgmori.co.jp/corporate/ir/>

2018年度、
営業利益増額修正の要因は?

今回、2018年度の営業利益を380億円へ、期初の営業利益350億円予想から30億円増額しました。プラス要因は、数量増で77億円を見込んでおります。マイナス要因は、材料費など変動費増で17億円、人件費増で10億円、東京デジタルイノベーションセンター開所などを含むR&Dなどの先行投資負担の増加等で20億円、合わせて47億円を見込んでおります。

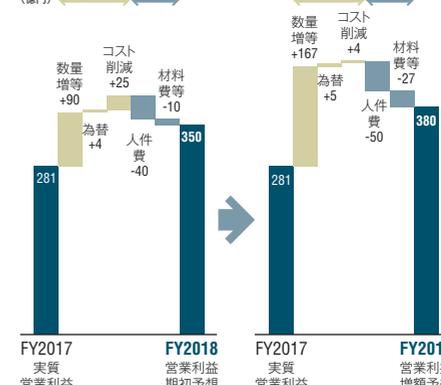
2018年度、
下期の売上が上期比横ばいの下、
営業利益率大幅改善の要因は?

2018年度、上期の売上2,352億円に対し、下期の売上を2,348億円とほぼ横ばいを計画しております。一方、営業利益率は、上期の6.7%に対し、下期は9.5%を計画しております。その要因は、①例年、下期に収益性の高い大型5軸機の売上が集中する傾向にあり、下期の売上総利益率が向上すること、②上期は、サプライチェーンの混乱により原価改善が遅れましたが、下期はその課題も解消に向かい生産性改善が期待できること、③上期は東京デジタルイノベーションセンターの開所などを含めR&Dコストが増加しましたが、下期はそれらの要因がなくなること、などです。

2018年度増額修正、増減分析 期初計画比

(億円)	FY 2018 (期初)	FY 2018 (修正)	増減	為替レート	FY 2018 (期初)	FY 2018 (修正)
売上高	4,500	4,700	+200	USD/円	110.0	110.0
数量増			+200	EUR/円	130.0	130.0
為替			+0			

期中予想		増額修正予想	
プラス要因	119億円	プラス要因	176億円
マイナス要因	50億円	マイナス要因	77億円



工作機械の省エネは世界の環境を変える

もともと工作機械は地球環境を汚さない、クリーンな機械です。使用年数が15~20年と長い分、省エネの効果は長期にわたり影響します。納入実績15万台以上の当社では、製品そのものの電気消費量削減、工場の省エネルギー化で、工作機械1台あたり年間2,650kgのCO₂を削減し、地球環境保護に努めてきました。さらに2015年からは梱包・物流改革を行い、生産工程やサプライチェーンでのさらなる廃棄物低減やCO₂削減に取り組んでいます。これまで機械輸送時に一度だけ使用され、その後廃棄処分されていた木材での梱包を見直し、海外輸送にはリターナブルパレット、国内輸送にはスチール梱包に変更いたしました。また、関東・関西・東海・北陸エリアに点在するパートナー約90社の生産部品を集約し、専用トラック便での輸送を行っております。パートナー各社の単独輸送と比べ、大幅なCO₂排出量削減を達成しました。

なお、今後は伊賀・奈良を中心に、環境保全に加えた景観美化活動も積極的に進めてまいります。

工作機械の使用年数は
15~20年!

20年後にはトータル
800万トン
以上の削減効果

工作機械1台あたりのCO₂削減量
年間 **2,650kg***

* 2012年度の事業者別排出係数等一覧における中部電力株式会社の数値にて算出

株主様向け 東京グローバルヘッドクォータ 見学会のご案内

見学会では、最新鋭の工作機械をご覧いただけるだけでなく、オペレータによる機械の説明とともに実際の実演加工もご覧いただくことができます。皆様のご応募をお待ち申し上げます。



日時 2018年12月12日(水) 11:00~14:30

- 見学場所** 東京グローバルヘッドクォータ ソリューションセンタ (JR潮見駅より徒歩3分)
- 参加費** 無料 (ただし、集合・解散場所までの往復交通費は各自のご負担でお願いいたします)
- 募集対象** 2018年6月30日時点で当社株式を100株以上保有する方 (同伴者1名可、小学生以上に限る)
- 募集定員** 50名 (応募多数の場合は抽選とさせていただきます)
- 交通** バス(東京駅⇄東京グローバルヘッドクォータ)もしくは公共交通機関
- 備考** 昼食をご用意しております

申し込み方法 左記のQRコードもしくは下記のURLからのお申し込みのみとさせていただきます。
<https://www.dmgmori.co.jp/sp/irtour/>



申し込み期間 2018年9月14日(金) 9:00 ~ 10月25日(木) 17:00
抽選結果は11月13日(火)に、当選者にのみメールにてご連絡します。
(落選の場合はご連絡は差し上げません)

お問合せ DMG森精機株式会社
広報グループ E-mail : users@dmgmori.co.jp

会社の概要 2017年12月31日時点

会社名	DMG森精機株式会社
資本金	51,115百万円
設立	1948年10月
本店(登記上)	〒639-1160 奈良県大和郡山形町106番地 TEL : 0743-53-1125(代)
名古屋本社	〒450-0002 名古屋市中村区名駅2丁目35-16 TEL : 052-587-1811(代)
東京グローバルヘッドクォータ	〒135-0052 東京都江東区潮見2丁目3-23 TEL : 03-6758-5900(代)
主な事業内容	工作機械(マシニングセンター、ターニングセンター、複合加工機、5軸加工機及びその他の製品)、ソフトウェア(ユーザインタフェース、テクノロジーサイクル、組込ソフトウェア等)、計測装置、サービスサポート、アプリケーション、エンジニアリングを包括したトータルソリューションの提供
従業員	12,375名(連結)
ホームページ	https://www.dmgmori.co.jp

株式の状況 2018年6月30日時点

発行可能株式総数	300,000,000株
発行済株式の総数	123,571,671株(自己株式2,382,012株を除く)
単元株式数	100株
中間期末株主数	37,113名

大株主 2018年6月30日時点

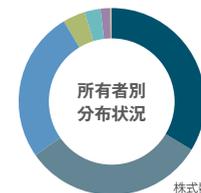
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,668	3.78
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL(常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社)	4,253	3.44
森 雅彦	3,591	2.91
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(森記念製造技術研究財団口)	3,500	2.83
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,454	2.80
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	2,778	2.25
DMG森精機従業員持株会	2,748	2.22
野村信託銀行株式会社(DMG森精機従業員持株会専用信託口)	2,466	2.00
野村信託銀行株式会社(投信口)	2,273	1.84
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	2,107	1.71

(注)1.当社は、自己株式(2,382,012株)を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。
2.持株比率は自己株式を控除して計算しております。

役員 2018年6月30日時点

取締役社長	※ 森 雅彦
取締役副社長	※ 玉井 宏明
取締役副社長	※ 小林 弘武
専務取締役	高山 直士
専務取締役	大石 賢司
取締役	青山 藤詞郎
取締役	野村 剛
取締役	中嶋 誠
取締役	御立 尚資
常勤監査役	近藤 達生
監査役	木本 泰行
監査役	土屋 総二郎

(注)1.※印は、代表取締役を示しています。
2.取締役の青山藤詞郎、野村剛、中嶋誠、御立尚資の4名は、社外取締役です。
3.監査役の木本泰行、土屋総二郎の2名は、社外監査役です。



株主メモ

事業年度	1月1日～12月31日
期末配当金 受領株主確定日	12月31日
中間配当金 受領株主確定日	6月30日
定時株主総会	毎年3月
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-782-031(通話料無料)
特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 電話：0120-094-777(通話料無料)
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所 市場第1部
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.dmgmori.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に掲載いたします。)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内

<https://www.dmgmori.co.jp>

ホームページにて当社の企業情報を随時公開しています。製品紹介、各種リンク、サポート情報などを掲載しているほか、コーポレートサイトでは決算短信などもご覧いただけます。



TOPページ



コーポレートページ

Facebook 毎日更新中!



お待ちしております。

